

和歌山病院での実習を終えて



小倉 圭史

今回、呼吸器内科での実習の一つとして2日間和歌山病院で実習をさせていただきました。2日という短い期間でしたが、とても多くのことを学ばせていただき充実した実習となりました。実習の内容としては、結核セミナーと実習、呼吸器管理、胸部レントゲンの読み方を学びました。

結核は過去の病気というイメージで、教科書上での知識はありましたが大学病院でのポリクリで実際にお目にかかったことはなく、今回和歌山病院での実習を通し実感に変わりました。結核が治ると言われる時代になった今でも厳格に隔離管理され治療されている様子を間近に感じることで、やはり結核は今でも注意が必要な病気の一つであると改めて確認できました。

そしてこの実習を通してなにより勉強になった事は南方院長による胸部レントゲン読影のセミナーです。レントゲンの読影は昔から苦手意識がありましたが、南方院長のディスカッション方式の講義を通し理論づけて読影方法を身につけることができました。レントゲンの読影方法が身につけているのはもちろんのこと、これから医者になるにあたり物事は一つ一つ自分なりに考えていくことが大事なんだなと思いました。

ちょうどあったかくなり、桜が満開の時期とかぶったこともあり心身ともに非常に気持ちよく実習を送ることができました。とても充実した2日間でした。ありがとうございました。